当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう！
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう！
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう！

解放新聞 和歌山版

発行所
解放新聞和歌山支局
〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302
発行責任者
中澤敏浩

拡大委員会ひらく

拡大県委員会を5月9日、同和企業センターでひらき、執行委員、県委員、支部長、支部代表が参加した。

はじめに、松本貞二・執行副委員長からあいさつのち、司会の飯田敬文・執行副委員長から議長選出がおこなわれ、田辺支部の大西正一・議長のもとすすめられた。

協議事項では、狭山最新闘争について、共闘部より復帰42年5・15沖縄平和行進について、和歌山県職員労働組合第73回定期大会について、湯浅町共闘会議第36回定期総会について、人権政策中央集会について、Y住宅販売会社差別事件について、女性部より第38回定期大会について、青年部より第35回定期大会について、教育文化運動部より全国同部長会議について、農林漁業運動部より全国同部長会議について、中小企業運動部より、選挙闘争について協議された。

ひきつづき、県連大会について、任務分担、代議員数、役員選挙、運動方針案、予算・決算案を確認し、各ブロックにわかれ、それぞれに分担されている大会議長や分散会議長、運営委員などを決めた。運動方針案の提案では、部落解放・人権行政確立にむけて、狭山闘争について、差別糾弾闘争について、共闘について、教育について、産業振興について、生活と環境について、組織建設について、反差別人権確立について県委員会で報告し、会議を終えた。

報告する池田副委員長

■大会日程

<第1日目>

12:00	受付開始
13:00	開会あいさつ
13:10	議長団選出
13:15	執行委員長あいさつ
13:30	来賓あいさつ
14:00	大会運営委員会報告
14:15	報告事項
14:45	提案事項
15:30	分散会
17:30	役員選挙投票（各分散会）

<第2日目>

9:00	受付
9:30	全体会
10:45	役員選挙
11:10	採択
12:00	閉会

■各任務

○大会議長・中島俊之（芦原）、荒木勝（新宮）、○分散会議長・松本勝（杭ノ瀬）、吉本観曜（岩出）、上山正宏（湯浅）、出口精二（田辺）、○大会運営委員会・山田裕也（善明寺）、長岡史郎（那賀）、小松正人（広川）、平野千秋（串本）、選挙管理委員・木下憲明（鳴神）、寺本忠行（名古曽）、辻本将典（有田市）、大西正一（田辺）

映画「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」和歌山上映会

昨年秋に完成したドキュメンタリー映画『SAYAMA　みえない手錠をはずすまで』の上映会が、主演の石川一雄さん、監督の金聖雄（キムソンウン）さんを招き、4月21日、和歌山県民文化会館小ホールでひらいた。

和歌山市、海南海草地方、紀北地方から解放同盟をはじめ、部落解放和歌山県共闘会議、部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会関係者約230人が集まった。

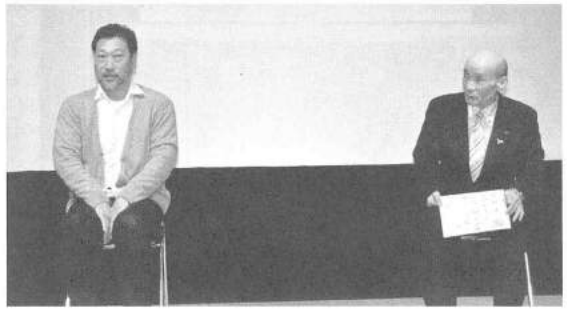
主催者を代表して池田清郎・県連執行副委員長が「みなさんの協力により、ようやく映画が完成した。この映画では石川さん夫妻の日常が自然体で描かれている。お二人の姿をとおして、もう一度狭山事件をみつめなおす機会になればと思う」とあいさつした。つづいて、石川一雄さんが「狭山事件の三者協議は17回ひらかれ、少しずつ証拠が開示されている。プライバシーに関係するから証拠は開示できないという検察にたいし、河合健司・裁判長は検察に開示を促す姿勢をとっている。袴田事件の再審開始決定につづくよう、さらなるご支援をお願いしたい」と力強く訴えた。

石川一雄さん

金監督が「石川さんと出会ったとき、殺人犯という先入観があったが、お会いしてこの人は決して犯人ではないと確信した。そのことを伝えたくて映画を撮ろうと思った。事件の検証よりもおふたりの素敵な姿、生きざまを撮りたい。そして、狭山事件を知らない人にも石川さんが犯人でないと感じてほしいと思い映画をつくった。多くの人にみてもらうことが、自分にできることだと思っている」とあいさつした。

その後、1時間45分の映画が上映され、会場は石川さん、早智子さんご夫妻のやりとりに笑いもあり、あらためて石川さんの無実、狭山事件についてそれぞれが感じることのできる上映会となった。

これまで、1月に有田地方、3月に田辺・西牟婁地方で上映会がひらかれている。今後は、6月に新宮・東牟婁地方で上映会がひらかれる予定。


対談する石川（右）さんと金監督

頑健

5月23日に、東京日比谷野音で狭山事件の市民集会が開催され、私も参加した。この日は、石川一雄さんが狭山事件の犯人として別件による不当逮捕されて51年目である。さて、集会がはじまる舞台裏でのできごとをひとつ▼この日、集会に多くのえん罪被害者の皆さんがゲストで出席したが、袴田さん（袴田事件）、桜井さん、杉山さん（いづれも布川事件）、菅谷さん（足利事件）、柳原さん（氷見事件）そして石川さんが、控え室に揃っていたが、ほとんど同時に並んで弁当を食べ出した。そのときを狙っていたかのように報道のフラッシュ、そして、映画のカメラが舐めるように弁当に箸をつけている面々（少し失礼な表現）を追っていった。凄い光景で、横で同じく弁当を食べようとしていた私は、まったく落ち着かず箸を止めた。凄い注目度で、とくに袴田さんは段違いであった▼狭山事件は今、多くのえん罪被害者のみなさんと連帯しながら大きな広がりをみせている。この日も石川さんの激励のために集会に駆けつけたのだ。集会の舞台であいさつをした再審裁判で無罪になった人から「石川さん、袴田さんを支えつづける」と激励があり、つづいて、あいさつに立った袴田さんから、その独特の世界観（松尾芭蕉の逸話など）を話があったが、途中で割って入ったお姉さんが「こんなことで、袴田は元気にしています」と笑いながら話したのに、会場がワッと沸いた（笑・失礼）。そして、ともにがんばろうと石川さんと握手を交わした▼このようすは、帰りの新幹線のテロップ・ニュースでも簡単だが流されていた。大いに意味がある51年目の集会となった。

（S・I）